マルシェでにぎわいを

歴史的建造物残る高崎・本町、椿町、九蔵町地区

準備資金をクラファン

ハレブタイ クラウドファンディング

高崎市本町周辺のにぎわい創出のため、「みちびらきストリートマルシェ」を開く実行委員会のメンバー

歴史的建造物の残る高崎市の本町と隣接する椿町、九蔵町地区のにぎわいを生み出そうと、地元区長や企業経営者らでつくる実行委員会は、9月16日に「みちびらきストリートマルシェ」を開く。準備資金の一部として上毛新聞社とグリーンファンディングが共同運営するクラウドファンディング（CF）サイト「ハレブタイ」で、資金50万円を募っている。15日まで。

JR高崎駅の北西1・5キロに位置する本町周辺は、歴史ある建造物や商店が残る。近年はケーキ屋やコーヒー屋、ビール醸造所、本屋など個性豊かな個人商店の開業が相次いでいる。一方で、高崎駅から徒歩20分と、中心部からやや離れた場所に位置しており、人通りが多いとはいえない。

こうした中、この地区を活性化させようと、県内中心にタイ料理のキッチンカーを出店している角田行慶（ゆきよし）さん(39)＝同市羅漢町＝がマルシェの開催を発案した。休眠不動産物件の再生事業を手がける「まちごと屋」（同市本町、大沢博史代表）が中心となって企画を進め、地元区長や企業経営者らで実行委員会を立ち上げた。

マルシェは本町や椿町、九蔵町周辺と、同市末広町に新たに開店した「ララパーク スエヒロ」で開く。実店舗25店のほか、本町周辺の使われていない空き家、駐車場を活用してキッチンカーが6台出店し、農産物販売やトークイベントなども5カ所で行う予定。

参加店は共通のタペストリーを掲げ、目印とする。角田さんは「こだわりを持ったお店が集まる。魅力を知ってもらう機会にしたい」とアピール。大沢さんは「歩きながら、町や店の雰囲気を味わってほしい。年に1回ほど継続して開きたい」と展望している。

CF＝QRコード＝の募集は9月15日まで。1口3千円からで、金額に応じてマルシェの金券やコーヒーのドリップバッグ、食事券などの返礼品を用意している。（丸山朱理）

2024.08.26.上毛新聞 社会面